広報こすど

発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人 矢部藤三郎

新年度予算決まる

六〇、五九二、六〇〇円

昨年より一六、二七八、五〇〇円増す

昭和三十六年度の予算を審議する三月定例議会は、三月二十二日より二十九日まで八日間に亘り慎重審議が行われた。提出議案三十三件、議員提案二件、請願書二件、委員会附託委員長報告三件で、可決した。

一、小須戸町議会議員等給与条例の一部改正の件

全国的な物価指数の値上がりに伴い小須戸町議会議員の出張旅費等の一部を左記の通り改正した。

鉄道賃 県外	一等実費
県内	二等実費
船賃	二等実費
車賃一kmに付	一〇円
日当	三〇〇円
宿泊料	一、二〇〇円

一、小須戸町特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例

八月人事院勧告について職員のベース改訂を行つた事により非常勤の特別職員の報酬改正を行ったものである。主なものは左記の通りである。（報酬は年額）

・監査委員	
議会選出	一〇、〇〇〇円
学識経験者	一三、〇〇〇円
農業委員長	二〇、〇〇〇円
同委員長代理	一五、〇〇〇円
委員	一二、〇〇〇円
教育委員	一三、〇〇〇円
・選挙管理委員会	
委員長	二、五〇〇円
同委員	二、〇〇〇円
固定資産評価審査委員会	
委員長	二、〇〇〇円
同委員	一、八〇〇円
同補助員	二、五〇〇円
・公平委員会	
委員長	三、〇〇〇円
同委員	一、五〇〇円
消防団長	九、〇〇〇円
副団長	六、〇〇〇円
分団長	二、五〇〇円
班長	一、〇〇〇円
団員	五〇〇円
国保運営委員	二、五〇〇円
民生委員推せん委員	五〇〇円
公民館運営審議委員	八〇〇円
保育園運営委員	一、〇〇〇円
市場運営委員	一、〇〇〇円
社会教育委員	五〇〇円
信用課証審査委員	一、五〇〇円
産業育成資金審査委員	一、五〇〇円
公民館長	三、五〇〇円
同副館長	二、五〇〇円
同分館長	二、〇〇〇円
同分館主事	二、〇〇〇円
嘱託員一戸当 町部	七〇円
在部	一〇〇円
（以下日額）	
投（開）票管理者	五〇〇円
投（開）票立会人	三〇〇円
選挙長	一、〇〇〇円

以上の特別職の旅費額は

鉄道賃	二等実費
船賃	二等実費
車賃 一km	一〇円
日当	三〇〇円
宿泊料	一、二〇〇円

一、小須戸町職員の特殊勤務手当支給に関する条例制定の件

地方自治法第二〇四条第二項の規定により地方公務員においてその勤務が著しく危険、不快、不健康又は困難もしくは特殊性の勤務に従事する職員については条例の定める範囲内において特殊勤務手当を支給することが出来ることとした。今回左記の事務に従事する職員について特殊勤務手当を支給するものとする。

(イ)町税の徴収事務に従事する職員
(ロ)出納事務に従事する職員
(ハ)水道工事に従事する職員
(ニ)伝染病防疫作業に従事する職員

一、小須戸町国民健康保険条例の件

この条例により国民健康保険運営委員は被保険者、保険医又は保険薬剤師、公益各代表五名ずつとして定数十五名としている。又中国人、朝鮮人も保険に加入することが出来るようになっている。貧困者には税を免除することも出来る。被保険者が出産、死亡した時は助産費、葬祭費を支給する。

一、小須戸町立小須戸中学校々舎建設について

本年度に入り中学生が急激な増加を示してきたので本年度に入り教室の不足を来たしているので起債を仰ぎ一三三・五坪四教室を増築する計画で教育に支障のないようにやって行くものである。

一、地方産業育成資金の予託について

小須戸町の商工業者の皆様方のために産業育成資金として予託するため役場庁舎建設資金から一二〇万を出資して商工業者の振興に供するため金融機関に予託するものである。

一、寄附採納願に関する件

年末年始にかけての歳当のため小須戸町商工会から十三万五千九十円を町に寄附して下さるとの申出がある。本町の財政窮迫の折ありがたく受けることになりました。

一、小須戸町議会臨時出納立会議員互選の件

小須戸町の出納事務を検査する議会議員の立会人を左記の通り互選し出納事務に遺憾のないよう立会うものである。

新井山辰次　荒木春一
高野良雄

一、小須戸町国民健康保険税条例の改正の件

この条例により国民健康保険税はその被保険者である世帯主又は世帯主に該当する者に対して賦課するものである。その賦課する総額が（世帯）に所得割、資産割、均等割の合算額で五万円をこえる場合は課税額五万円とする。保険税の税率については所得割一、八資産割八、〇均等割、二〇〇円、平等割、八二五万円である。又徴収の特別に係る税額の修正の申出については徴収令書の交付の日から三十日以内に町長に申出ることが出来る。この外保険の納期等を決定した。

一、一時借入金の件

小須戸町の一般会計、八百万円以内、上水道特別会計、百万円以内、国民健康保険特別会計、百万円以内を必要に応じ数回に分割して借入ることとする。但し財政状態によっては借入をしないこと

一、昭和三十五年度小須戸町一般会計追加更正予算

昭和三十五年度末がせまり八七二、三四九円の追加を行って昭和三十五年度の予算総額は五七、〇〇五、二七二円となり本年度の最終予算額となった。

一、昭和三十五年度小須戸町上水道特別会計歳出追加予算

昭和三十五年度の最終予算六、三七二、三三八円として議決した。

一、昭和三十五年度小須戸町国民健康保険特別会計歳入歳出追加更正予算

昭和三十五年度末がせまり療養給付費[illegible]を追加し最終予算額四、三三五、〇〇〇円となった。

一、昭和三十五年度小須戸町伝染病隔離病舎建設工事歳入更正予算

[illegible]

一、常任委員会選の件

議会の常任委員[illegible]は二ヶ年とし[illegible]本年五月で任期満了となる[illegible]三月定例会において[illegible]役場の[illegible]合理的な[illegible]常任委員会[illegible]委員の中から委員長を決定したものである。

教育行政を計画的に

とにかく、本年度も終りなった。永久橋の着工、道路の舗装、商工会の発足等々、日につくものだけでも、いくつかの大きな事が、完成し、またはじまった年度であった。町政をあずかる町長はじめ、町議、その他、関係の方々には町民の一人として、一年間、ご苦労様でした、と心からお礼を申し上げたい。

しかし、その反面、またいくつかの、腑におちない問題をのこした事も事実ではあるまいか。その中でも、各方面より、もれ伝わる話を綜合してみて、一父兄として、最も遺憾に思うのは、三十六年度の教育予算についてである。ご承知のように、以前、公報にも、くわしくのった事があるが、本年度は、中学生が、急増し、それにともなう校舎問題が、すでに、二、三年前より論ぜられていたと思う。今年度は、まかりまちがえば、二部授業になるのではないか、との論がのったのも、この公報であった。父兄側でも、それに対して、昨年春、校舎増築促進委員会を結成し、できるだけの努力をしたつもりであった。ところが、四月も、目前にせまった頃になって、学校側の要求は修正を加えられ、最後の要求は、更に半分に削られて、本年度は、二教室との案に決定したとの事である。その為、中学校では、とりあえず今一番広い教務室を職家の教室にあけわたし、職員はせまい所でがまんするとか、図書室、家事室、映写室をつぶして、教室にするなどの事をせねばなるまいとの話である。

現在の学校教育について、くわしく知るわけもないが、実験、実習を通して、生徒が身をもって学ぶという事が、特に大切であることは、まちがいないことであろう。木工機械を入れ、バイク、ラジオをとり入れる事を、文部省が命じているというのは、そのはっきりした証拠ではあるまいか。小学校、中学校とも、生徒の数は、数年先まで、かんたんにつかむことができるはずであり、町民として、父兄としては、四月寸前になおその計画を修正縮小して、教育を混乱におとし入れるような事になる前に、何とかできなかったであろうかと、痛感する次第である。今年の高校入学率は、決してよいものではなかった。聞くところによると、昨年度は、すでに、図書室は、本をしまうのが精一ぱいで、十分に活用する部屋もなかったとの話である。来年度の高校入試は、全県一せいに生徒数が大巾に増す年である。困難さは、今年の比ではあるまい。こんな時に、教室不足から、教材活用も不十分になりがちな教育をうけさせる不安を考える時、少ない予算であればある程、更に計画的な行使を考えてほしいと希望する次第である。そして、もう一言いわしてもらうなら、これらの計画こそ、教育長、教育委員の最大の仕事であることを思う時、これらの人達の、更に一そうの奮起をのぞむ気持で一ぱいである。

（一父兄）

新生活人運標語

きょうの時間は
もうこない
まってもまっても
もうこない

本年度予算

歳入の部

款名	金額
町税	[illegible]
地方交付税	[illegible]
財産収入	[illegible]
分担金及負担金	[illegible]
使用料及手数料	[illegible]
国庫支出金	[illegible]
県支出金	[illegible]
寄附金	[illegible]
繰越金	[illegible]
雑収入	[illegible]
町債	[illegible]
合計	六〇、五九二、六〇〇円

歳出の部

款名	金額
議会費	[illegible]
役場費	[illegible]
消防費	[illegible]
土木費	[illegible]
教育費	[illegible]
社会及労働施設費	[illegible]
保健衛生費	[illegible]
産業経済費	[illegible]
財産費	[illegible]
統計調査費	[illegible]
選挙費	[illegible]
公債費	[illegible]
諸支出金	[illegible]
予備費	[illegible]
合計	六〇、五九二、六〇〇円

本当はこうです

水道増改設工事

去る二月当町水道工事の起債を回って[illegible]新聞に掲載され[illegible]

[illegible]

小須戸風土記

文政地震

柏　大治

新潟県では昔から局地的な地震が起っております[illegible]文政十一年十一月十二日の三条地震[illegible]

[illegible]

大災は忘れた頃にやってくる[illegible]

変わりました

県立病院診療費

当院は四月一日より診療費の計算方法が変わりまして、町で開業の先生方と同じ計算によることになりました。よって今迄と料金が大分変わって参ります。二、三の例を示すと次の通りです。

初診料	一八〇円が五〇円
往診料	一二〇円が一二五円
手術料（盲腸の場合）	四、〇〇〇円
入院料（食事付一日）	三一二円が五七〇円
注射料（使用薬価が六〇円まで）	三四円が九八円
静	二三円が六七円

☆ ☆ ☆

生活改善は我々の手で

明日に望みのある生活を

連青研修会から

三十五年度連合青年団の最後の活動としての青年研修会は、去る三月十二日中学校を会場として開かれたが、自分達の生活に対する考え方、また自分達の作っている青年団という任意団体に対する考え方が、浮き彫りされ確認された。これに出席できなかった団員のみなさんと町民のみなさんからも知ってもらうため当日の内容を集約しました。

第一分科会「青年のあり方」

現在の青年会の実情が本当によく話合われました「年々会員が減少して行くこと」これはどこの青年会でもいわれることで、昔は七〇名もいたのが今は十五名それも入って来る人がなく、もう二、三年で青年会も無くなるだろうという青年もある。これは各部落の農村機構が変った（兼業農家が多く、部落での若い者が少なくなっている）のと、今の青年の考え方が原因ではないだろうかという見方は一致した。

「青年会は古い伝統がある」そうした戦前の一律統制主義の中に生れた活動が、今でも変ることなく年間行事となっている。新年度総会、花見、運営資金のための作業、盆踊り、新年会、年度末総会それらはどうしてもやらなければならないとし、その世話係の選出にも苦労しているのだ。形式化され規約なども変えないのだから青年会そのものは、今の若い者にはなんの魅力も無い。だからいつも役員だけの青年会になり役員のなりてがない。そのため目的などもぼかされていて、中途半端な団体になっている。このようであるから籍だけ入っている義理だけでおつきあい程度にしか入っていない団員が多い。だから団員意識など有るとか無いとかの議論は、この分科会と役員だけの中に終ってしまう。抽象的な青年団機構を全部変えてしまうという改造論的なものに終始しその方法論について意見の食違いがあり、そこで研究委員会を作り来年度の青年団活動のつき上げとして終った。

第二分科会「青年の生活」

自分達の生活の中には多くの無駄がある。なくすることは簡単であるようであるが、めんどうなものである。冠婚葬祭の改善などは一番急務な問題であり無駄のないすっきりとした地域社会を作るために大切な問題であるが、昔からの習慣は、ここでも動かない。親爺連中の対面意識（人前が悪い）が阻害しているようだ。

これら改善運動の実施方法であるが、人前、親類との対面関係一つのきめが必要であるそれは町ぐるみのきめでなければならない。だから青年会の啓蒙運動なども、町の新生活運動推進委員会に働きかけ、婦人会に働きかけてゆかなければならない。それにしても新生活運動推進委員会がなにか、から廻りのように印象づけられているのは、我々には責任があると反省させられた。

また私達が一番改善してもらいたいものは部落における、町における人間関係だがあまりにも他人の生活に干渉し過ぎる。あゝでもないこうでもないと、時には人と人とを対立させ家と嫁との仲をこわす。だから人のうわさを気にしつつ暮す青年達はけっして農業をきらってはいないが、こうした農村の古さの中の生活が嫌いだという。

こうした改善も生活改善の一端として運動して行かなければなるまい。嫁と姑、夫婦、親子の関係など家庭内の改善も合せて行かなければならない。若い者の農村を嫌う原因はこれなのだ。また私達はそうした原因を親達のこととせず、それに対する働きかけが必要である。

また自分たちの職業について話し合ったが結論として職人、労働者、農業人も将来に希望を持つことが出来るかということで、それに対する裏づけがない、経済的に不安定だ、経済的にしっかりとした見通しが欲しい。また今一番欲しいのは金でありそれは物質欲ではなく、将来に対する安定感を得るためだ。

その金を得るには今のところ一穫千金は無理で、一生懸命に働き無駄のない合理的な生活をするより他に方法がない。

政治の働きかけも必要だが無理をして表面に立たなくても、知識を得て一票に生かせばよいという。

女性の習い物にも批判があったが、冬になるとみんなが行くがこれが本当に生かされているか疑問だ。もう少し自主性が必要でないか、それよりも嫁に行った場合に夫の相談相手になられるような勉強が大切だ。

女性の考えは嫁に行くためにだけ習っているのではない、趣味としても習っているが嫁に行く所が、農家とは決っていない。町に行く場合もあるということ。

また農村の女性はもうすこし将来というものを考えはっきりした線で自分の生活を作り上げて行くような心がまえと、教養を身につけておかなければならないと結論づけられた。

始終笑声が起り、なごやかな分科会として終った

良いお母さんにと月一回話合う

メンドリクラブ

グループめぐりその8

私たちの会が生まれたのは昭和三十三年の初秋の九月でした。それで名も「秋葉会」と名づけました。その後横町男子の方によって「オンドリクラブ」ができましたので誰いうとなしに「秋葉会」が「メンドリクラブ」と呼ばれるようになりましたので本年の三月正式に「メンドリクラブ」と改名いたしました。

それは毎日／＼仕事と家事におわれている主婦たちが、月に一回くらい楽しく語り合ったり、物事を研究しあったりして親しみを一層ふかくしようというのが目的でありまして、毎月百五拾円の会費をだし合い、二拾円は当日の茶菓子代。百三拾円を積立てて年一回社会見学旅行をすることにしています。

最初集金は会員宅に廻り番でやっていましたが三十四年十月から公民館におねがいして、当日二名ずつの当番制にしてその日のすべてのお世話をすることにしております。

現在では会員はわずか十二名でありまして、三十代から四十代層の人たちの集まりです。全員合議制でして、全員が会長であり、副会長であり、また役員であるという仕組であります。

議題はお互にもちよります。楽しかったこと、くるしかったこと、またよかったこと、わるかったことなども発表しあいます。壁にぶつかりどうにもならないなやみごとはもちろんのこと、全員がこれにぶつかって研究しあい解決策にとりくみます。

いままで、ささいなことにくよくよしていたこともはっきりわかるようになり、自から反省が先にたって、理解力も少しずつやしなわれていることに気づきました。

また仕事としては昨年公民館主催の「ふとん講習会」と「料理講習会」には全員で受講し、今年は会自身で「ふとん作り」と「料理」等を実習する予定になっています。

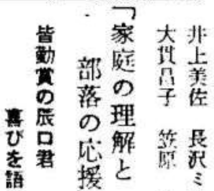
さらに子供の「しつけ方」等に「お母さまこそ最良の家庭教師」であるといわれていますので、子供の人格形成には第一の責任者としてお互に学び合うことにしています。

いまさかんにいわれています「新生活運動」にも「合理的なくらし」と、ないちえをしぼって研究しております。

姑さんや主人、家族全体の解理のもとに話合が交されている集まりです。

晴れの三十三名

小須戸分校第十二回卒業生



新津高校小須戸分校では三月廿五日第十二回卒業式を行った。晴れの卒業生三十三名で（男子二十五名、女子八名）女子の卒業生を八名も送り出したのは、今年がはじめてと関係者を喜ばせている。

なお受賞者次の通り

- 代答賞　岩崎征一　井上美佐
- 新潟県高校定通振興会賞　栗原久子
- 小須戸分校賞　野崎朋子
- 皆勤賞　辰口英一
- 精勤賞　井上美佐　長沢ミツイ　大貫昌子　笠原　ヨイ

「家庭の理解と部落の応援」

皆勤賞の辰口君　喜びを語る

四ヶ年の間、一度の遅刻をすることもなく、夜の道を戸石から通学できたことに自分自身でさえ言いあらわすことができないほど感激しております。

これは、私自身ももちろん努力はいたしましたが、それ以上に家庭の理解と、部落の方々の絶大な応援のおかげであったと、ただ／＼感謝しております。

（写真は皆勤の辰口君）

旅のつれづれ

九州一周紀行

成田流水

風肌寒き二月二十日矢代田駅を後に一路九州へ。

二月二十二日九州入り。下関から門司へ関門トンネルも明け方の夢うつゝの間に通過。

春の夢トンネルの轟きにさめにけり

博多へ八時頃着く。黒田節で有名な福岡博多日本三大八幡宮の一つ筥崎神宮は応神天皇と神功皇后を祀る。

旅の春人形買うて店を出る

〔虹の松原〕

日本三大松原の一つ、壮大な眺めである。

虹の松原へ波たゝみくる春の海

〔嬉野温泉〕

神功皇后凱旋の地として有名。嬉野は皇后のお言葉を地名とした。茶の産地。

野も山も緑の線やお茶島。

二月二十三日

西海橋はアーチ式、世界第三位。工費五億五十万円、三百十七米。伊の浦瀬戸に架かる。国立公園の中心地。

舟人は人形の如し春橋下

〔佐世保〕

戦前軍港で有名。今は米軍の根拠地。

春の海島々岬浮かびけり

〔長崎〕

原爆の地昭和二十年八月九日午前十一時二分。お蝶夫人ゆかりの地、南山手の小高い丘にある風光明媚の所。

主なき建物古りし庭の苔

〔平和記念像〕

浦上の原子野に立つ、高さ三十余尺。

春の空雄々しき像や天を指す

〔雲仙〕

国立公園大雲仙は映画「君の名は」で有名な哀しき場面。真知子岩を残している。立ち聞き地獄お糸地獄はすぐ眼の前に。

雲か山か大雲仙の春霞

〔熊本〕

西郷南州ゆかりの地城山岩崎谷の洞穴は歴史家の涙をそゝる。

城山に西郷語る春日永

南洲翁に生きうつしの人から南洲のはなしをきく

〔鹿児島〕

水前寺公園は近江八景をかたどった細川忠利の作

〔桜島〕

大正三年の大爆発に昔の様相が一変した。周囲三十粁、鹿児島観光の中心地。

噴煙は天に沖して春の雲

二月二十四日

〔宮崎〕

ビロー樹は街路樹として茂っている。青島は有名である。

春風にビロー樹の葉ずれさわさわと

〔別府〕

別府銀座でみやげ物を買うザボン漬け・竹細工等

春うらゝ十大地獄めぐりけり

印象深さは血の池地獄と坊主地獄。

工場めぐり　その三

日本一の漬物工場

田中食品株式会社

陽春三月、晴れた日に田中食品株式会社を訪れて、工場見学をさして頂きました。事務所を一歩入った瞬間数多くの賞状の中に新しい額に入った農林大臣賞の賞状が目に止まりました。早速お話しをお伺いしてみると三月四日名古屋市で開催された全国漬物展示品評会で大根味噌漬が全国第一位に入賞し日本一と折紙がつけられたとの由。受賞感想として「子供を育てると同様の苦労と喜びです」と生産部長は口数少なく語りました。小憩後、工場を案内して貰いました漬込倉には大きな桶が五列に整然と並んで居りその他中桶、小桶が色々な品種毎に漬込まれて居ります。此処では沢庵は製造してないそうで、よくこんなに大量の漬物が売れるものかと驚きました。

原料の細断、漬込漬樽が手際よく、のどかな雰囲気の中で進められて居る。別な作業場では製品出荷の為、樽詰、梱包がたくましいかけ声の中で男性的なリズムでどんどん積重ねられ輸送を待つばかりです。ふと前方を見ると一室が網戸で囲まれ、殺菌灯をつけた清潔な部屋があります。そこではインスタント食品として食卓を賑わす漬物の袋詰で計量する者、ポリエチレン袋に詰める者、シール機を踏む者、木函に詰め荷造りする者、つぎからつぎとどん／＼生産されて居り分担作業の能率化をはっきりと認めました。これら漬物の主原料たる野菜は一年中のものを一旦塩漬として貯蔵するとの事。塩漬倉にはこれ又大桶がずらりと並んで居り一桶一本に約四屯の塩漬が入って居りこれは生野菜で大型トラックで二三台分だそうです。尚これらの製品の販売先は北は北海道より南は大阪、九州まで漬物小須戸の名を広く伝えて居る由。製品は味噌漬、もろみ漬（おけさ漬）、粕漬、しその実漬、朝鮮漬、その他で味噌漬が約二分の一を占めて居るとのこと。田中食品の漬物製造の由来は戦前野菜が多くとれると生産者の人達が市場で売れ残ると困り、帰路小須戸橋より投げすてられるのを見兼ねその加工研究を始めたと浮う。然し商品として売るには矢張り野菜そのものの質が大切であるので近在農家と蔬菜栽培研究会を組織して品種の改良、耕作技術の指導、先進地の視察等開拓者として幾多の困難をのりこえて今日に至った。目に見えざる幾多の研究と試練を乗越えて来た此の工場に今回農林大臣賞の栄冠が輝いたのも不思議ではないと思います。現在全国各地より注文殺到、社員一同一段と協力し社運の隆昌を目指し明るく張り切って活躍して居られた事は誠に慶賀の至りです。

漬物の袋詰作業

ありがとう

サービス店会さん

小須戸小学校にこのほど町サービス店会より「教材の一部に」と金一封が贈られ、関係者一同よろこばせた。

期日　**5月中旬**

会費　400円程度（往復バス利用）

残雪の五頭登山

主催　小須戸町山岳会
　　　小須戸町公民館

電蓄を御寄贈

二番町浜尾商店よりこのほど、町公民館に大型電蓄が寄贈された。当の公民館では二階広間に専用としてそなえる。

涅槃会句会報

小須戸町俳句同好会

残雪にツゲ垣いまだいばりつく　香月
春泥の靴や先客すでにあり　虚秋
棺かつぐ隠亡までの雪深し　越樓
飛行雲二筋が春の雲を截る　紫川
春泥の一円硬貨乾きいし　山葵
受付は窓あくまでの梅の鉢　杏水
竹流の青き匂いや鶯菜　水月
高崎山の猿とたわむる春日永　流水